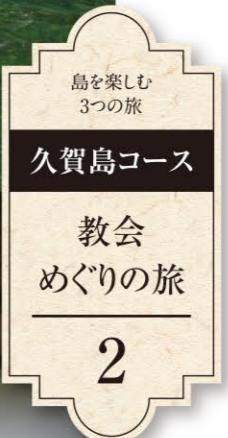




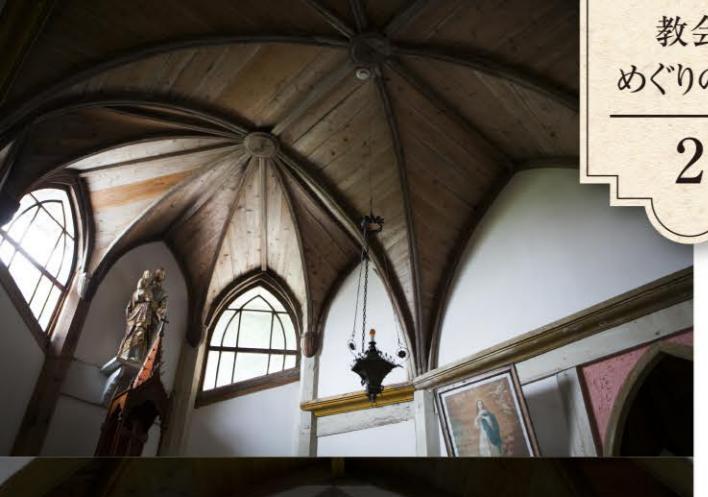
舊五輪教會堂



島を楽しむ
3つの旅

久賀島コース
教会
めぐりの旅

2



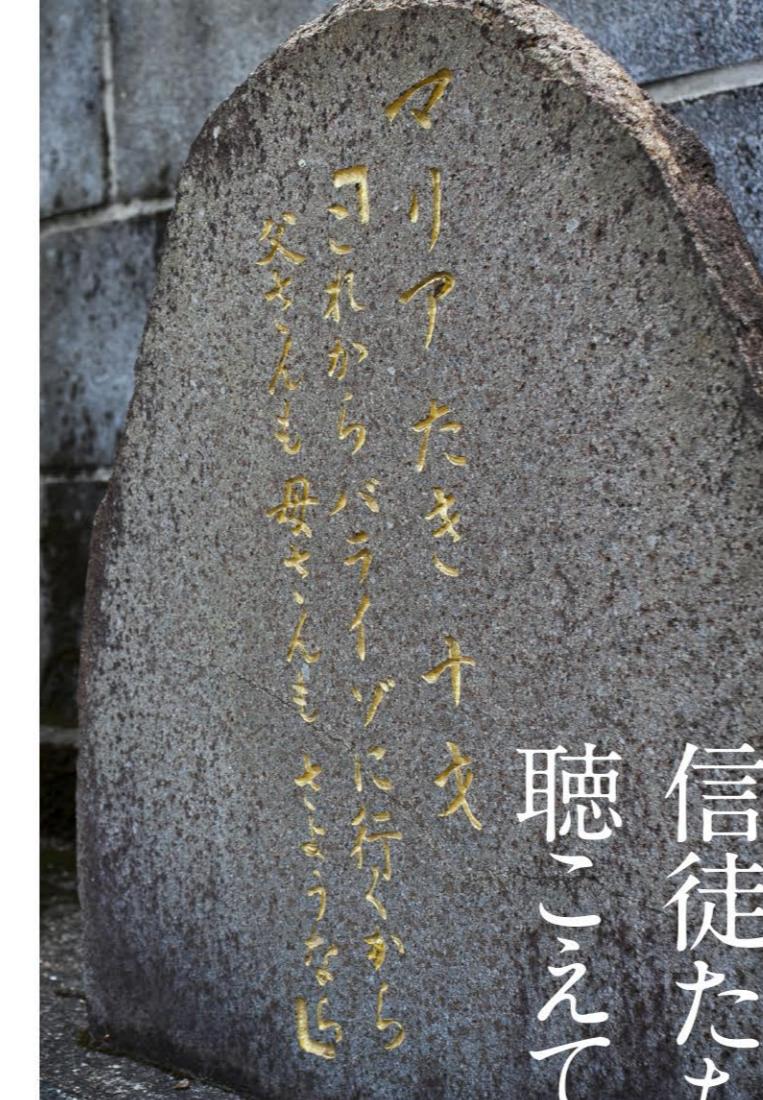
久賀島はガトリックにとつて特別な島です。それは一八六八（明治元）年、この島で凄まじい迫害が行われたからです」と中村さんは話す。久賀島では、わずか六坪ほどの牢屋に八カ月もの間、二百名の信徒たちが押し込められ、横になることも許されず、排泄さえもその場で行うことを強いられるという、壮絶な弾圧が行われた歴史がある。この弾圧により四十二名の命が失われている。「牢屋の窄殉教記念教会」を訪れると、そこには亡くなつた方々の名前が刻まれた碑が並んでいる。碑には「トメイ政治郎 六才 アップ(水)アップと云いながらかわきのために死亡」「ドミニカたせ十二才 虱^ヒに下腹をかまれて死亡」「マリ

アたき 十才 これからハテイソに行くが
ら父さんも母さんもさようなら」……
と、胸が苦しくなるような文言が刻まれ
ている。中村さんは「ここには一歳から
八十五歳の人々が押し込められました。
計算すると、畳一枚の広さに十七名もの
人々。しかしこれだけの弾圧を受けて
も、改宗者は一人もいなかつたんです」
と、この地が聖地である理由を教えてく
れた。「想像を絶する残酷さを發揮するの
も人間なら、最期まで信仰を貫くのも人
間」。ご自身もカトリックである中村さん
は、そつぶやいた。

しい五輪教会の建設により、教会としての役目を終えた。「そのとき島民たちが、もしかしたら貴重な建物ではないかと思いい、調べてみたんです。そうしたら長崎では大浦天主堂に次いで古い木造の教会堂だということが分かつたんです。旧五輪教会堂は解体の危機を乗り越えて、今があるんですよ。まさかその建物が国の重要文化財となり、今度は世界遺産を目指すなんて驚きです」と中村さん。旧五輪教会堂は外から見ると、瓦屋根の和風建築だが、内部は三廊式で、板張りのリブ・ヴォールト天井。小さいながらも和と洋が見事に融合しており、窓越しに見える海や緑も教会の美しさを引き立てている。

魅力を「追害を受けながらも、ずっと信仰を守り続けてこられたのは、この島の人たちの人柄にあると思います。久賀島には素朴な人が多い。その素朴さは、もしかしたら今の時代には魅力的に映らないかも知れませんが、私はそれこそがこの島の魅力だと感じています」と話す。

久賀島の人々の心を表すように、旧五輪教会堂に掲げられた十字架は、小さく慎ましやかなものであった。



信徒たちの声が 聴こえてくる



A photograph of a small, modern Christian church nestled in a forested hillside. The church has a white upper section with a red roofline and a lower section made of reddish-brown textured panels. An arched entrance features a statue of Jesus. A large cross sits atop the building. The surrounding area is dense with green trees and grass. On the far left, a vertical column of Japanese text is partially visible.

A close-up photograph of a light-colored, smooth rock resting on a bed of dark gravel. The rock has been hand-painted with a stylized design. On the left side, there are several red flowers with yellow centers and black outlines. To the right of the flowers, the characters '地獄の花' (Flowers of Hell) are written vertically in white. Above this, the characters '地獄' (Hell) are written vertically in white. The background is blurred, showing more of the gravel and some out-of-focus red flowers.